～ドラゴンクエスト～

伝説の勇者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
～ドラゴンクエスト～

【Ｎコード】
Ｎ４１８３Ｃ

【作者名】
伝説の勇者

【あらすじ】
バラモスの野望を打ち砕くべく一人の男が旅にでる。

封印されし宮殿

第一章　異変

謎の男
「・・・無事に出られたみたいですね」
謎の女
「出られたのはいいけど、今からどうするの？」
謎の男
「そうだな・・・ハックじいさんの所に行ってみましょう」謎の女
「・・・あの人大丈夫かしら」
謎の男
「・・・今は心配している場合ではありません。行きましょう」
謎の女
「ええ」

今から約３０分前・・・　グラスタール城

偉そうな男
「何事だ？こんな夜更けに」

がっちりした男
「この男が謎の集団を見たと言っています」
傷だらけの男
「・・・あれは人間じゃねぇ・・・魔物だ。そんじょそこらの魔物じゃねぇよ。奴等にやられた。イスタール城がやられたんだ。」
偉そうな男

「あのイスタール城が！？・・・なんという事だ」
傷だらけの男
「奴等は間もなくここにくる。今すぐ・・・戦う準備を！・・・グフッ！！」
男は血を吐き、息耐えた
がっちりした男
「・・・王様。ご指示を。」偉そうな男
「・・・寝ている兵士を叩き起こせ。準備だ。戦う準備を大至急するのだ！」
がっちりした男
「かしこまました！！」
偉そうな男
「この者を葬ってやれ」
痩せてる男
「はは！」
そう言うと偉そうな男は階段をかけあがり、自分の寝室え向かった。
偉そうな男
「おい！起きろ！」
美しい女
「どうしたのです？こんな夜更けに」
偉そうな男
「地下室へ行くのだ。」
美しい女
「何故です？いったいなにが・・・」

がっちりした男
「王様！王様！」
偉そうな男
「どうした！？」
がっちりした男

「魔物の群れが城内に侵入してきました！！」
偉そうな男
「何！？もう来たのか。おいセリナ、何があっても絶対この部屋からでるなよ。」
美しい女
「え、ええ。」
そう言うと男は部屋に飾ってあった剣を手にとり、部屋を出た。

その頃

？？？
「もうすぐだ。もうすぐで我らの時代がくる。ここにあるはずだ。封印を解く鍵が。ガーゴイル共！鍵を取ってこい！」
ガーゴイル
「グギャー！」
おびただしい量のガーゴイルの群れがグラスタール城に突っ込んだ。
兵士
「うわっ！なんだこの大群は。うわー！！」
兵士はガーゴイルに斬られ、倒れた。
がっちりした男
「混乱するな！しっかりと相手を見て、剣を当てろ！」
ガーゴイル
「グギギギギ！ギャャ！」
兵士
「うわ！？」
いくら兵士の腕前が上回っていようと、数が多いガーゴイルが有利だということには変わりはなかった。
王様
「どういう事だ。」
？？？

「こういう事だよ」
慌てて後ろを振り替えると、魔物が宙を浮きながら、こっちを見ていた。
王様
「何者だ！？なぜ人の言葉が喋れる？」
？？？
「私はただのモンスターではない。格が違うのだよ。」
そう言うとにたっと笑った。
王様
「何が目的なんだ！？」
？？？
「７０年前、一人の男が我らの長、オルゴ・デミーラ様を封印した。その封印を解く鍵を探しているのだが・・・」
王様
「・・・鍵？そんなものはここにはない。他を当たってくれ」？？？
「ふふふふ。」
謎の魔物はふと地面に降りたかと思うと王様の首を締めながら持ち上げた。
？？？
「嘘をつくな！！イスタール城の王がグラスタール城にあると言っておったわ！さあ答えろ！鍵はどこにある！さもないと・・・」
謎の魔物はさらに締め上げた。
王様
「・・・一階の奥の部屋だ。」
謎の魔物
「最初から素直に言えば良いのですよ。案内してもらえますか？」
王様
「わかった。・・・クリフ！！」
謎の男
「ははっ！」

王様
「姫を頼んだ。」
謎の男
「王様・・・わかりました！」
そう言うと王様はにこっと笑い、一階に降りていった。兵士
「うわっ！なんだこの大群は。うわー！！」
兵士はガーゴイルに斬られ、倒れた。
がっちりした男
「混乱するな！しっかりと相手を見て、剣を当てろ！」
ガーゴイル
「グギギギギ！ギャャ！」
兵士
「うわ！？」
いくら兵士の腕前が上回っていようと、数が多いガーゴイルが有利だということには変わりはなかった。
王様
「どういう事だ。」
？？？
「こういう事だよ」
慌てて後ろを振り替えると、魔物が宙を浮きながら、こっちを見ていた。
王様
「何者だ！？なぜ人の言葉が喋れる？」
？？？
「私はただのモンスターではない。格が違うのだよ。」
そう言うとにたっと笑った。
王様
「何が目的なんだ！？」
？？？
「７０年前、一人の男が我らの長、オルゴ・デミーラ様を封印した。

その封印を解く鍵を探しているのだが・・・」
王様
「・・・鍵？そんなものはここにはない。他を当たってくれ」？？？
「ふふふふ。」
謎の魔物はふと地面に降りたかと思うと王様の首を締めながら持ち上げた。
？？？
「嘘をつくな！！イスタール城の王がグラスタール城にあると言っておったわ！さあ答えろ！鍵はどこにある！さもないと・・・」
謎の魔物はさらに締め上げた。
王様
「・・・一階の奥の部屋だ。兵士
「うわっ！なんだこの大群は。うわー！！」
兵士はガーゴイルに斬られ、倒れた。
がっちりした男
「混乱するな！しっかりと相手を見て、剣を当てろ！」
ガーゴイル
「グギギギギ！ギャャ！」
兵士
「うわ！？」
いくら兵士の腕前が上回っていようと、数が多いガーゴイルが有利だということには変わりはなかった。
王様
「どういう事だ。」
？？？
「こういう事だよ」
慌てて後ろを振り替えると、魔物が宙を浮きながら、こっちを見ていた。
王様
「何者だ！？なぜ人の言葉が喋れる？」

???
「私はただのモンスターではない。格が違うのだよ。」
そう言うとにたっと笑った。
王様
「何が目的なんだ!?」
???
「70年前、一人の男が我らの長、オルゴ・デミーラ様を封印した。
その封印を解く鍵を探しているのだが・・・」
王様
「・・・鍵?そんなものはここにはない。他を当たってくれ」???
「ふふふふ。」
謎の魔物はふと地面に降りたかと思うと王様の首を締めながら持ち上げた。
???
「嘘をつくな!!イスタール城の王がグラスタール城にあると言っておったわ!さあ答えろ!鍵はどこにある!さもないと・・・」
謎の魔物はさらに締め上げた。
王様
「・・・一階の奥の部屋だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4183c/

～ドラゴンクエスト～

2011年1月23日14時36分発行